

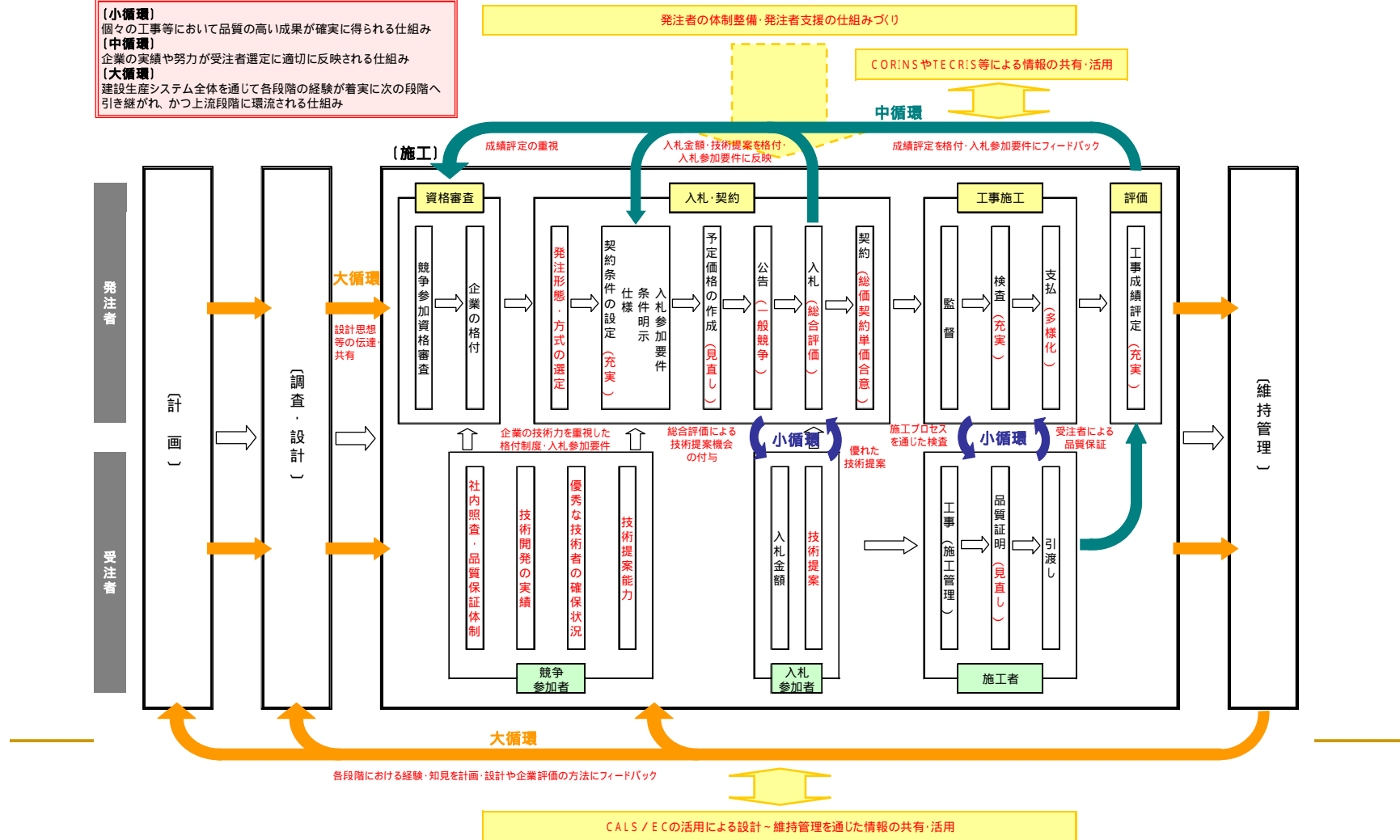
企業評価の方向性について(案)

平成18年12月20日

1. 基本的な考え方

透明性・競争性の高い調達制度を前提に、良い仕事をした企業が受注機会を拡大する等報われるように企業の実績や努力が受注者選定に適切に反映される仕組み(中循環)を構築する。

【小循環】
個々の工事等において品質の高い成果が確実に得られる仕組み
【中循環】
企業の実績や努力が受注者選定に適切に反映される仕組み
【大循環】
建設生産システム全体を通じて各段階の経験が着実に次の段階へ引き継がれ、かつ上流段階に環流される仕組み



2. どのような企業と契約したいか

契約の相手方として望ましい企業像

～ 「中間とりまとめ」(平成18年9月) ～

施工能力に優れた優秀な技術者・技能者を確保している
契約内容を誠実かつ適切に実施し、成果物の品質を確保できる

請負にあたって、下請企業とも適切な契約を実施している
技術者・技能者の育成や新技術の開発等、技術力の向上・継続に努力している

防災活動や災害復旧活動等様々なかたちで地域へ貢献している

適正な競争によって安定した経営を行っている

2. どのような企業と契約したいか

望ましい企業像	評価の視点
施工能力に優れた優秀な技術者・技能者を確保している	(1) 資格や十分な施工実績を有する技術者・技能者を恒常的に雇用しているか
	(2) 雇用している技術者・技能者が優れた工事实績を有しているか
契約内容を誠実かつ適切に実施し、成果物の品質を確保できる	(1) 品質の高い工事实績を有しているか
	(2) 品質確保に係る施工計画が適切か
	(3) 品質保証に係る体制が整備されているか
	(4) 不誠実な行為(労働福祉、安全管理等を含む)の実績がないか
請負にあたって、下請企業とも適切な契約を実施している	(1) 下請企業と適切な契約関係にあるか
	(2) 下請企業が品質の高い工事实績を有しているか
技術者・技能者の育成や新技術の開発等、技術力の向上・継続に努力している	(1) 技術者・技能者の育成を継続的に行っているか
	(2) 新技術の開発等を行っているか
	(3) 総合評価に係る技術提案が適切か
防災活動や災害復旧活動等様々なかたちで地域へ貢献している	(1) 地域の防災支援活動等に参画しているか
	(2) 平常時におけるボランティア活動等により地域との信頼関係の構築を行っているか
適正な競争によって安定した経営を行っている	(1) 安定した財務能力を有しているか
	(2) 企業のコンプライアンスが確立されているか
	(3) 適切な積算能力を有しているか

3. どのように企業を選定すべきか

建設業許可

競争参加資格審査

審査結果に基づき企業を格付。

(論点1) 現行の総合点数による企業の格付が適切か。

(論点2) 現行の等級区分 / 発注標準が適切か。

(論点3) 工事分野ごとの技術力に応じた企業の格付を導入してはどうか。

入札参加資格審査

工事ごとに入札参加に必要な要件を設定し、要件を満足しない場合には欠格。

(論点4) 工事ごとに技術力を重視した入札参加要件を設定してはどうか。

総合評価

入札参加者のうち、価格及び品質が総合的に最も優れた企業と契約。

(論点5) 良い仕事をしたことを総合評価においてどのように反映させるか。

落札者の決定

2年に1回

工事ごと

4. 競争参加資格審査のあり方

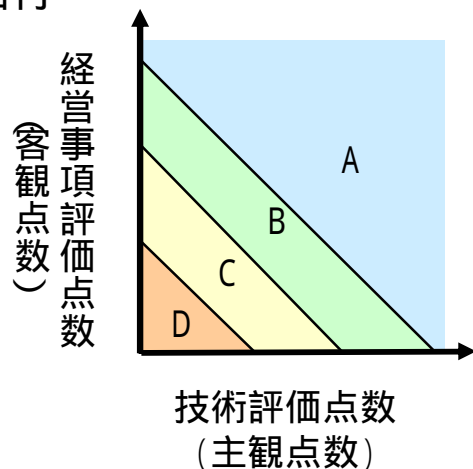
〔論点1〕 現行の総合点数による企業の格付が適切か。

優れた技術力を有する企業を適切に評価するため、**技術力をより重視した格付制度**とすべきではないか。

経営力は、**経営事項審査結果と工事ごとの入札ボンド制度**を適切に組み合わせて評価すべきではないか。

現行の等級区分(企業の格付)

企業ごとに総合点数を付与し、企業を格付



現行の発注標準

工事規模(予定価格)に応じて、対応する等級を設定

工事規模	7.2億円	A
	3.0億円	B
	0.6億円	C
		D

総合点数
= 経営事項評価点数(客観点数) + 技術評価点数(主観点数)

4. 競争参加資格審査のあり方

現行の技術評価点数(主観点数)は工事規模が支配的であるため、**工事成績がより反映されるように見直す**とともに、**技術力や企業信頼度を評価する新たな指標**を加えてはどうか。

評価指標の増加に伴う発注担当者の負担を軽減するため、**第三者機関によるデータベースの構築及び審査の導入**を図ってはどうか。

技術評価点数(主観点数)

過去4年間の直轄工事の施工実績をもとに点数化

$$\text{合計点数} = \{ ([\text{成績評定}] - 65) \times [\text{技術的難易度}] \times [\text{工事規模}] \times [\text{VE等評価}] \times [\text{部局係数}] \}$$

[参考] 経営事項評価点数(客観点数)

建設業者は決算期ごとに経営事項審査を受ける必要があり、資格審査申請時には直近の経営事項審査から、下式により算定した総合評点が客観点数となる。

$$\text{総合評点}(P) = 0.35X_1 + 0.10X_2 + 0.20Y + 0.20Z + 0.15W$$

X_1 : 工事種類別年間平均完成工事高

X_2 : 自己資本額・職員数

Y : 経営状況分析(収益性・流動性・安定性・健全性)

Z : 技術力(技術職員数)

W : その他の審査項目(労働福祉の状況・工事の安全成績・営業年数・建設業経理事務士の数)

4. 競争参加資格審査のあり方

〔論点2〕 現行の等級区分 / 発注標準が適切か。

等級が細分化されている場合、良い仕事をするだけで等級を上昇させるだけで、競争参加機会の拡大にはつながらないため、良い仕事へのインセンティブが働きにくいのではないか。

一方で、発注者が大手企業と中小・中堅企業にそれぞれ期待するものは異なる部分があり、**大手企業と中小・中堅企業のすみ分け**を図る必要があるのではないか。

全国的に営業を展開している
大手企業に期待するもの

コスト縮減や目的物の
性能・機能の向上、工期短縮等、工事の価値の向上に寄与する高度な技術力

主としてある地域を中心として営業を展開している中小・中堅企業に期待するもの

災害時等における迅速な対応能力、現場を熟知した調整能力

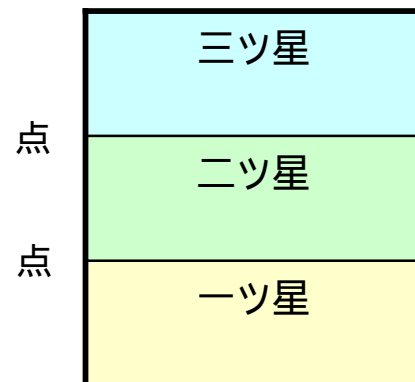
4. 競争参加資格審査のあり方

〔論点3〕 工事分野ごとの技術力に応じた企業の格付を導入してはどうか。

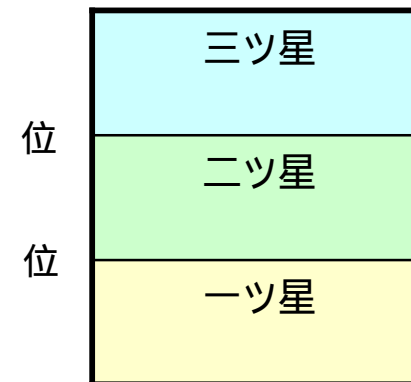
競争参加資格審査に基づく等級区分とは別に、**工事分野(例えば、トンネル、ダム、ケーソン、その他構造物)ごとの技術力に応じた企業の格付をおこなってはどうか。**

工事分野ごとの技術力に応じた企業の格付の例

〔トンネル分野における
技術評価点数に基づく格付〕



〔ダム分野における
工事成績評定ランキングに基づく格付〕

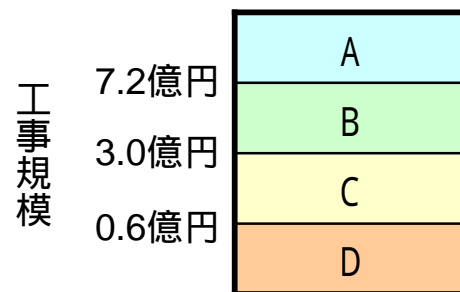


4. 競争参加資格審査のあり方

[参考] 案

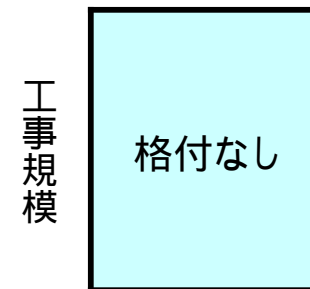
等級区分を廃止あるいは集約化し、工事ごとに技術力を重視した入札参加要件を設定する。

現行の格付

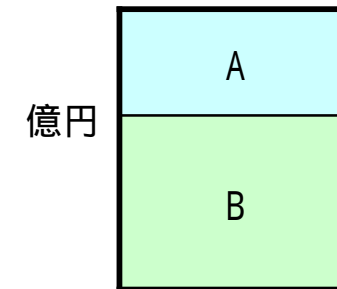


等級区分の集約化の例

案 - 1



案 - 2



工事ごとに技術力を重視した要件を設定することにより、優れた技術力を有する企業の競争参加機会を拡大する一方で、施工能力の劣る企業や不誠実な企業を排除する。

4. 競争参加資格審査のあり方

[参考] 案

現行の等級区分を踏襲しつつ、例えば、工事分野ごとに企業の希望する工事規模を受け付け、技術力や企業信頼度を審査した上で企業の格付を行う。

現行の格付

工事規模	7.2億円	A
	3.0億円	B
	0.6億円	C
		D

希望に基づく格付の例

工事規模	7.2億円	A	A	A	A
	3.0億円	B	B	B	B
	0.6億円	C	C	C	C
		D	D	D	D
		トンネル	ダム	ケーソン	その他

現行ではBランクに格付されている企業が、「トンネル」と「その他構造物」については、Cランクを希望した場合のイメージ

4. 競争参加資格審査のあり方

[参考] 案

大臣許可か知事許可かにより、総合点数の算定方法や評価指標を変えて別々に企業の格付を行う。

現行の格付

工事規模	7.2億円	A
	3.0億円	B
	0.6億円	C
		D

許可主体別の格付の例

工事内容・難易度等に応じて
対象工事を分類

知事A	大臣A	億円
	大臣B	億円
	大臣C	
知事B		

地域貢献を重視
して格付

新技術の開発等
を重視して格付

4 . 競争参加資格審査のあり方

[参考] 案

現行の格付制度を踏襲し、総合点数の算定方法の見直しを行う。

例えば、技術評価点数(主観点数)と経営事項評価点数(客観点数)の比率を現行の5:5から6:4に見直す。

また、技術評価点数(主観点数)は工事成績がより反映されるように見直すとともに、技術力や企業信頼度を評価する新たな指標を加える。

技術力を評価する指標の例

技術者・技能者の継続教育等の実績
新技術の開発等の実績・体制等

企業信頼度を評価する指標の例

不誠実な行為の実績
コンプライアンスに対する取組

5. 入札参加資格審査における要件設定のあり方

(論点4) 工事ごとに技術力を重視した入札参加要件を設定してはどうか。

技術力による企業の格付を活用してはどうか。

同一ランク内において、技術力を重視した要件を設定し、優れた技術力を有する企業の競争参加機会を拡大してはどうか。

技術力を重視した要件設定の例

工事分野(例えば、トンネル、ダム、ケーソン等)ごとの企業の格付による評価

- ・Aランク企業のうち、ダム工事分野における格付 〇〇〇に限定
- ・Cランク企業のうち、トンネル工事分野における格付 〇〇〇以上

技術評価点数(主観点数)による評価

- ・技術評価点数 〇〇点以上

工事成績評定企業ランキングによる評価

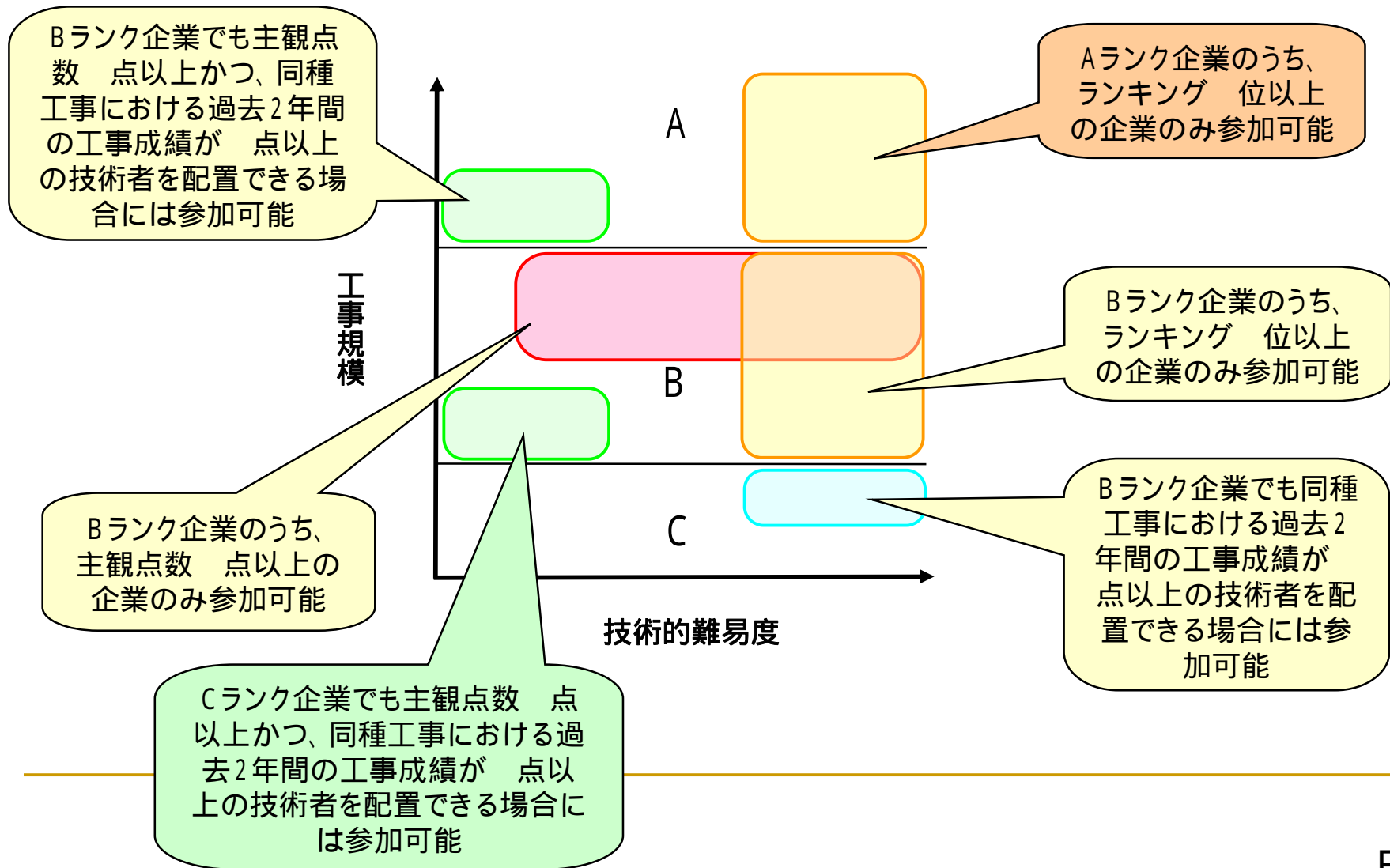
- ・ランキング上位100位まで

配置予定技術者の工事成績による評価

- ・工事成績 〇〇点以上

5. 入札参加資格審査における要件設定のあり方

技術力を重視した要件設定の適用イメージ



6. 総合評価における評価項目のあり方

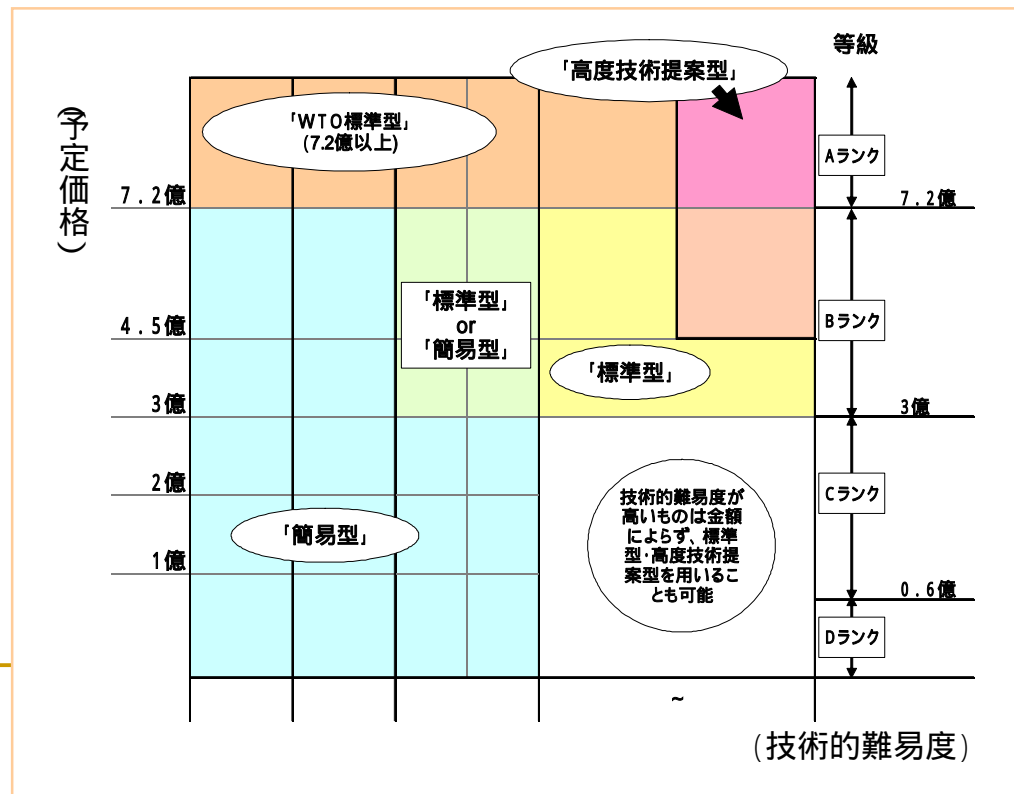
〔論点5〕 良い仕事をしたことを総合評価においてどのように反映させるか。

工事規模や難易度により総合評価方式のタイプや評価項目を使い分けてはどうか。

簡易型のみならず標準型においても、企業の施工能力(工事成績、過去の技術提案の評価等)や配置予定技術者の能力(工事成績、表彰の実績等)、下請企業的能力(表彰の実績等)等を積極的に活用してはどうか。

〔総合評価方式の タイプ選定例〕

(関東地方整備局における
一般土木・建築の選定基準)



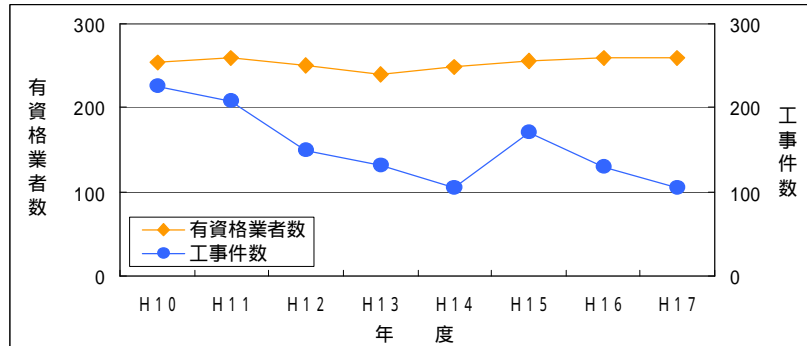
[参考] 評価の視点の具体的イメージ

契約の相手として望ましい企業像	評価の視点		競争参加資格審査	入札・契約			工事施工	評価 (工事成績・コスト調査等)	
				入札ポンド	入札参加資格審査	総合評価			
			2年に1回			工事ごと		技術提案等以外	技術提案等
			過去数年間の評価	当該工事の入札参加時点における評価		当該工事の施工法等、実施方針の評価			
施工能力に優れた優秀な技術者・技能者を確保している	(1) 資格や十分な施工実績を有する技術者・技能者を恒常的に雇用しているか	恒常的雇用関係にある全技術者・技能者の保有資格者数等							
	(2) 雇用している技術者・技能者が優れた工事実績を有しているか	当該工事の施工に必須となる配置予定技術者の施工実績等 当該工事と同種工事における配置予定技術者の工事成績等							
契約内容を誠実かつ適切に実施し、成果物の品質を確保できる	(1) 品質の高い工事実績を有しているか	企業全体の過去の工事成績等							
		当該工事の施工に必須となる同種の工事成績等							
		当該工事と同種の工事成績等							
	(2) 品質確保に係る施工計画が適切か	当該工事の施工計画の適切性							
(3) 品質保証に係る体制が整備されているか	当該工事に対する品質保証体制								
	(4) 不誠実な行為(労働福祉、安全管理等を含む)の実績がないか	過去の不誠実な行為の実績 入札参加資格審査申請時における不誠実な行為の実績							
請負にあたって、下請企業とも適切な契約を実施している	(1) 下請企業と適切な契約関係にあるか	企業全体の過去の下請企業との契約実績等							
		当該工事の下請に対する代金支払い計画							
技術者・技能者の育成や新技術の開発等、技術力の向上・継続に努力している	(2) 下請企業が品質の高い工事実績を有しているか	当該工事の施工に必須となる下請企業の施工実績							
		当該工事と同種工事における下請企業の表彰実績等							
	(1) 技術者・技能者の育成を継続的にしているか	恒常的雇用関係にある全技術者・技能者の継続教育等の実績							
当該工事における配置予定技術者の継続教育等の実績									
(2) 新技術の開発等を行っているか		過去の新技術開発等の実績・体制等 当該工事に係る技術分野の新技術開発等の実績							
(3) 総合評価に係る技術提案が適切か	過去の総合評価に係る技術提案実績(VE評定)								
	当該工事と同種工事における過去の総合評価に係る技術提案実績								
	当該工事の技術提案の適切性								
防災活動や災害復旧活動等様々なかたちで地域へ貢献している	(1) 地域の防災支援活動等に参画しているか	過去の防災支援活動等の実績							
		当該工事箇所における地域での防災支援活動等の実績							
適正な競争によって安定した経営を行っている	(2) 平常時におけるボランティア活動等により地域との信頼関係の構築を行っているか	過去のボランティア活動等の実績							
		当該工事箇所における地域でのボランティア活動等の実績							
	(1) 安定した財務能力を有しているか	過去の企業の財務能力							
入札参加資格申請時における企業の財務的な履行能力									
(2) 企業のコンプライアンスが確立されているか		コンプライアンスに対する取組や過去の不良工事(低価格入札)の実績							
(3) 適切な積算能力を有しているか	過去の企業の積算能力(入札率の実績)								

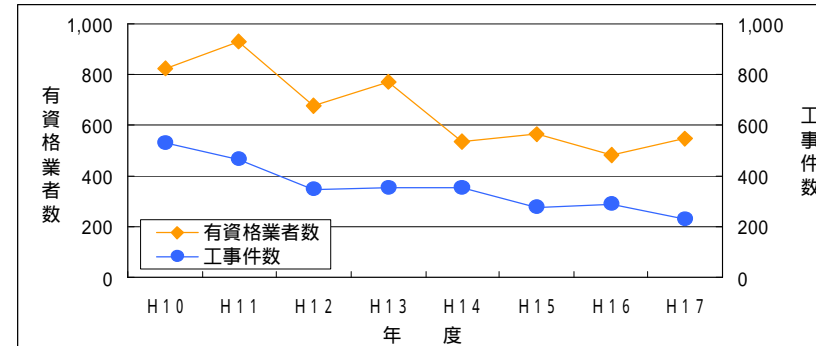
(凡例) : 現行の評価対象, : 現行の評価対象外, : 経営事項評価点数(客観点数)による評価対象
 (色彩) : 技術力, : 経営力, : 企業信頼度, (記号) : 共通, : 大手企業, : 中小・中堅企業

[参考] 有資格業者数と工事件数の推移 (一般土木)

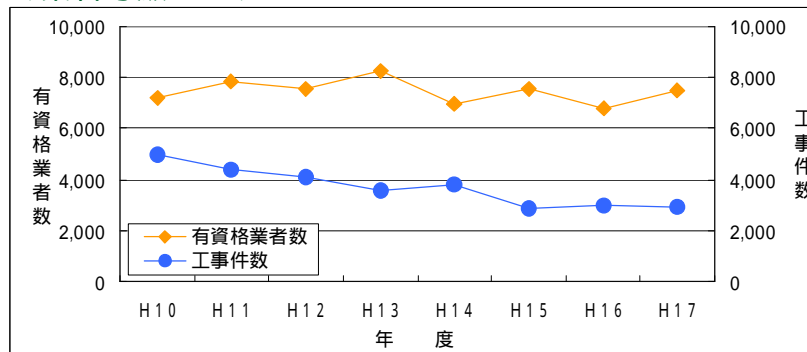
〔業者等級：A〕



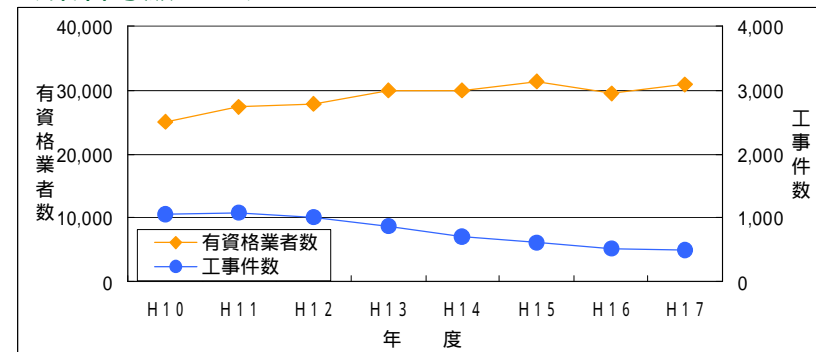
〔業者等級：B〕



〔業者等級：C〕



〔業者等級：D〕



注) 有資格業者数及び工事件数は「国土交通省直轄工事等契約関係資料」(地方整備局における一般土木)による。